



にかさい

江戸川区立第二葛西小学校

令和8年9月1日発行

2学期もよろしくお願いします

副校長 山本 秀樹

夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。今年の夏休みは、7月18日(土)のおやじの会のデイキャンプからスタートしました。体育館でのテント張りや校庭での放水体験、カレー作りやプール遊びなど、おやじの会の皆様が子どもたちのためにと計画してくださり、保護者を含めて200名ほどの参加があったと聞いています。休み明けの子どもたちの表情からは、デイキャンプだけでなく、休み中にゆっくり充電したり、いろいろなことを経験したりして、一回り成長した様子を伺い知ることができました。まだまだ暑い日が続きますが、2学期は11月の音覧会をはじめ、行事が続いています。保護者の皆様には、引き続き子どもたちの体調管理等、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

私たちにできること

今から41年前の1985年8月12日、羽田空港発伊丹空港行きの日本航空機が群馬県上野村の御巢鷹山の尾根に墜落し、520名の命が失われました。当時、本校に通っていた3年生と2年生の姉弟とそこへご家族も搭乗しており、被害に遭われました。本校の第2音楽室には、子どもたちが生きた証として御祖母様から寄贈されたピアノがあり、毎日の授業で美しい音色を奏で、その時の記憶を未来へつなげています。

先月1日には、本校の学校評議員の方にお声掛けいただき、PTA、おやじの会の方々と一緒に、追悼のため、御巢鷹山までご一緒させていただきました。事故の現場は「御巢鷹の尾根」と命名され、そこには「昇魂の碑」という慰霊碑が建立されています。今回は、昇魂の碑に至る登山道を訪れ、本校のピアノの演奏で6年生の児童が歌った「上を向いて歩こう」と、全校で歌った校歌を流し、哀悼の意を捧げました。その後、山の麓にある追悼のための施設「慰霊の園」に向かいました。私たちが到着したときには、たくさんの人が慰霊塔やその周りを清掃していました。話を伺ったところ、8月12日に合わせて、毎年、日本航空及び関連会社の方々が清掃作業を行っているそうです。若者もベテランも総出で、教訓を風化させないため、安全の意識をつなぐための取組が、脈々と続いているのです。清掃の合間に、犠牲になった本校児童とご家族の霊名碑に手を合わせることができました。実は、私は当時3年生だったお姉様と同年。一瞬で将来を奪われてしまった事故に対して、悔しさと切なさが溢れてきました。

今回のことを通して、私たちが二葛西小の教師としてできることについて、改めて考えさせられました。このような悲惨な事故が二度と起きないよう、歴史を語り継ぐこと。校内で、安全に生活できるようにすること。そして、何より、子どもたちが生きている実感をもって、楽しく過ごせるようにすること。学習指導はもちろんのこと、「命や心を大切にすること」「困っている人を助け、優しくすること」ができるように、これからも教育活動を進めてまいります。

お知らせ 1年1組担任の志水教諭の妊娠出産休暇に伴い、9月1日より宮腰 久佳(みやこし ひさよし)教諭が産休代替教員として、1年1組の担任となります。志水教諭が休暇に入る11月17日までは、2人体制で1年1組の児童を指導していきます。



慰霊の園を清掃する方々

九月の暗唱

- 1 耳が痛い
 - 2 三日坊主
 - 3 頭をひねる
 - 4 足が出る
 - 5 顔から火が出る
- 五月にも「慣用句」を取り上げました。子どもたちは、意欲的に取り組みました。九月はアンコールに添えて、よく使う「慣用句」を出します。「慣用句」は「ことわざ」と、よく混同されますが、二つの言葉が合わさって、違う意味の言葉になるのが、「慣用句」です。
- 日常生活でよく使う慣用句は、「顔」「頭」「目」など、身体の部位を使った表現が多いです。
- 意味もぜひ覚えさせてください。
(低学年)一つく三つ
(中学年)三つく五つ
(高学年)五つ全部
- 意味を掲載している紙は、本日配布です。